

## 統一論題セッション報告要約フォーマット

氏名(Name)

櫻井 公人

所属・職(Affiliation)

立教大学経済学部

報告タイトル(Title)

世界システム変動と多国籍企業  
ーグローバル政治経済学で読み解く国際秩序転換の意味

キーワード(5 keywords)

アメリカ第一主義, 経済安全保障, 構造的パワー, 基軸通貨, S. ストレンジ

要約(Abstract)

私たちが目撃している現代は、後世にどのような転機として意識されるのだろうか。国内拠点を放棄して外国に拠点を置く多国籍企業も敵視されかねないのがトランプ 2.0 であり、「アメリカ第一主義」である。グローバルゼーションに適合した在庫削減やサプライチェーンの最適地立地がかえってリスクとなり、「カントリーリスク」や「地政学リスク」が再浮上した。次々と繰り出される奇策の「洪水」はトランプ流の「気まぐれ」か、それともニクソン流の「マッドマン・セオリー」か。直近の変化だけを注視すれば、めまぐるしいジェットコースターのような環境変化に惑わされ、乗り物酔いすることになるだろう。では、「自由貿易体制を主導してきたアメリカ」が変貌したのだから戦後国際秩序は大きく変わったのだという巷の環境変化の認識で十分だろうか、あるいはそもそも正しいといえるだろうか。より長期に視野を据え、「南北戦争」を再現したアメリカ建国以来の対立と分断の構図を確認し、「アメリカ第一主義」100 年の展開を確認したい。理論パラダイムを含め、そこに振り子のような振幅を確認できれば、トランプ政策が表す変化と転換の意味を知る一助となるだろう。グローバル政治経済学の知見を援用し、世界システム変動の現局面をとらえる試みとしたい。

<参考文献> 拙稿[2020]「グローバルゼーションー『アメリカ第一主義』の起源と帰結」齊藤修・古川純子編『分水嶺にたつ市場と社会ー人間・市場・国家が織りなす社会の変容』文眞堂。

※ スペースが足りない場合は、ご自身で追加してください。